令和８年８月４日

加西市議会議長 中右憲利 様

調査研究実施報告書

会 派 名 加西市民クラブ
代表者名　深 田　照 明

下記のとおり行政視察を実施したので、報告いたします。

記

１．日　程　　令和８年７月27日（月）～29日（水）
２．視察先　　山形県寒河江市　山形市　天童市　東根市
３．参加者　　深田照明　　田井真一　　※令和新風加西との合同視察
４．視察内容等

◇山形県寒河江市「寒河江市役所」　(7月27日（月）13:30～15:00)

（視察項目）　農業の担い手育成について(新規就農等支援事業について)

（視察対応者）

寒河江市議会	柏倉議長
農林課	渡邉課長
農林課農政係	菅野係長
農林課農政係	伊藤主事
議会事務局総務係	青山係長

（内　　容）　別紙の通り

◇山形県山形市「山形市保健所」　(7月28日(火)　10:00～11:30)

（視察項目）　健康ポイント事業 SUKSK(スクスク)について

（視察対応者）

健康増進課	高嶋課長補佐
健康増進課	柴崎 SUKSK 推進調整主幹
健康増進課	酒井課長補佐
議会事務局調査係	岩出主査

（内　　容）　別紙の通り

◇山形県天童市「天童市役所」　(7 月 28 日(火)　13:30～15:00)

(視察項目)　　空き家対策(「わが家」のエンディングノート)について

(視察対応者)

天童市議会	遠藤議長
都市計画課	佐藤課長
都市計画課	結城技術補佐兼都市再生係長
都市計画課都市再生係	齋藤主査
議会事務局調査係	武田係長

(内　　容)　　別紙の通り

◇山形県東根市「東根市役所」　(7 月 29 日(水)　9:30～11:00)

(視察項目)　　公益文化施設　まなびあテラスについて

(視察対応者)

教育委員会生涯学習課	岡田課長
教育委員会生涯学習課	奥山文化振興主査兼係長
まなびあテラス	藤田総合館長
議会事務局議事係	鈴木係長

(内　　容)　　別紙の通り

5. 所　感　　別紙の通り

6. 添付書類

(1) 視察行程表

(2) 写真

(3) 研修資料

【山形県寒河江市】

視察項目　　農業の担い手育成について(新規就農等支援事業について)

(目的)

加西市でも年々農業従事者が減少し、新規就農者の受入れ策などを展開しているが、なかなか成果が上がっていない。そこで、寒河江市の新規就農者の確保・育成政策を調査研究し、加西市の施策に反映したい。

(内容)

1．寒河江市の基本情報

- 人口：38,281 人（R7）　　・ 面積：139.03km²　（加西市と近似している）
- 経営耕地面積：約 20km²（田 62%・樹園地 32%・畑 6%）
- 農業生産額：約 101 億円（うち 53 億円がさくらんぼ）　（R5 推計値）
- 主要農産物：水稲、桜桃（さくらんぼ)、野菜類、西洋梨、ぶどう、桃

2．農業の担い手の現状　(総農家数)

・総農家数の推移は 1995 年 2,959 戸、2000 年 2,601 戸、2005 年 2,485 戸、2010 年 2,158 戸、2015 年 1,944 戸、2020 年 1,794 戸、2025 年 1,537 戸と 30 年で 48%減
・このペースでいくと 2045 年には 1,000 戸割れになる。
・水稲は経営体の法人化が増え、大区画化・効率化の傾向にある。
・手間のかかる果樹の仕事の効率化が課題　(生産額の約 7 割が果実)
・人口減少スピードよりはるかに速く担い手が減少している。

3．農業の担い手の現状　(年齢構成)

※普段仕事として主に自営農業に従事している 15 歳以上の世帯員の人数
・20 代 1.0%、30 代 3.2%、40 代 5.3%、50 代 6.1%、60 代 23.3%、70 代 41.2%、80 代以上 19.9%
・70 代以上が 61.1%で平均年齢は 70.1 歳である。
・1995 年時では平均年齢 61.9 歳であったが、高年齢化が進んでいる。

※新たな担い手の確保は急務である。そのためには、「稼げる農業」の実現や効率化
高齢農家からの経営継承が必要

4．担い手育成のための事業展開

① 新規就農者育成総合対策　【国事業】

農林水産省が展開する新規就農者支援のメインパッケージ。現金支給による営農初期の経営安定のための資金「経営開始資金」と設備投資資金「経営発展支援事業」

①-1 経営開始資金

・使途 生活費・営農経費等（使途は問わない）　・内容　165 万円×最大 3 年間
・利用者　令和４年４名　令和５年８名　令和６年１２名　令和７年１２名

①-2 経営発展支援事業

・使途 機械・施設等の購入・整備　・対象費 上限 500 万円
・補助率： 3/4（最大 375 万円）　・対象者 経営開始 2 年目以内の人のみ対象
・利用者　令和４年３名　令和５年３名　令和６年０名　令和７年４名

② 新規就農者定住促進支援事業 【市独自事業】
寒河江市に居住された場合の住宅賃料などの補助
・補助率　月額賃料の 1/2（最大 4 万円＋光熱水費 5,000 円（定額）
・期　間　最長 5 年間
・対象者　市外から転入した認定新規就農者・農業研修生・雇用就農者
・利用者　令和 3 年 4 名 令和 4 年 2 名 令和 5 年 3 名 令和 6 年 3 名 令和 7 年 1 名

③ 担い手新規就農支援事業【市独自事業】
・使途 機械・施設等の購入・整備　乗用草刈り機、高所作業車、トラクターなど
・対象費　上限 200 万円　　・補助率 1/2（最大 100 万円）
・対象者　認定新規就農者　5 年間
・利用者 令和 3 年 3 名 令和 4 年 3 名 令和 5 年 3 名 令和 6 年 3 名 令和 7 年 5 名

5． 新規就農者の推移
補助金などの事業展開で新規就農者が少しずつ増えている。
・新規就農者数　人数(うち雇用されている者)
令和 3 年 18 名(13 名)　令和 4 年 17 名(9 名)　令和 5 年 9 名(4 名)
令和 6 年 18 名(7 名)　　令和 7 年 18 名(9 名)

・全体としてはここ数年で新規就農者は約 400 名、離農者は 1500 名となっている。
・支援した認定新規就農者のうち、直近 5 年での離農者は 1 名（病気）のみ定着率は高い。(雇用就農者については市で動向を確認してない)
・独立就農者の多くは市内出身者、U ターン、または市に縁のある方（妻が寒河江出身・親族が寒河江市など…)
・孫世代が就農するケースが目立つ・・おじいさんの畑を守りたいなど
・認定新規就農者は 5 年で計 25 名　うち市外からは 7 人

6． 新規就農者の支援に関するそのほかの取り組み
①農業経営アドバイザー（元 JA 職員）の設置
農業経営や就農計画立案の相談対応のほか、就農希望者の相談や就農者の園地確認なども担っている。
②新規就農者支援育成協議会によるサポート
市・農業委員会・JA・県・農業士会などからなる支援組織で就農フェアへの出展、就農体験ツアーの開催、園地巡回指導、相談会の開催などを実施。
③若手農業者団体（「さがえ農人会」）の支援
市内の若手農業者を中心に構成された任意団体。活動資金の一部は市が補助。
（約 80 名からなる経営・技術研鑽・交流推進を図る団体）
④地域おこし協力隊の活用（任期後の就農者 2 名、現役隊員 2 名）
都市部から地方に移住し地域のための活動を行う「地域おこし協力隊」を農業分野に導入。地域の農業者の支援を通じて技術獲得を行い、3 年の任期後に自身の就農を目指す。
前述の協議会が受け入れ団体となり、さがえ農人会とも一緒に活動する。
⑤樹園地継承データベースの活用（今年度実装予定）
後継者のいない果樹農家の離農者と経営拡大意向者・新規就農者・研修生をマッチングして、果樹を切らずに次世代へつなぐ仕組み導入
（果樹を切ってしまうと数年、実がならない）

【山形県山形市】

視察項目　　健康ポイント事業 SUKSK(スクスク)について

(目的)

加西市も健康ポイント事業として、歩くことで健康維持と健康寿命延伸などを図っているが、山形市は「歩くほど幸せになるまち」を表明し、より先進的な健康ポイント事業をされているので調査研究し、加西市の健康事業の参考にしたい。

(内容)

1．山形市の目指している都市ブランド

医療や健康に資する地域資源の強みを活かして、健康医療先進都市として「選ばれるまち山形市」を目指している。

・総合病院が数多く立地し、人口 10 万人あたりの病床数・医師数が東北中核市内で一番多い。
・山形大学医学部「東日本重粒子センター」で世界に誇れる次世代型重粒子線がん治療が受けられる。
・温泉などの自然環境や豊かな食文化等、健康に資する地域資源がたくさんある。

2．山形市の概要

・人口：約 23 万 6 千人（令和 8 年 4 月 1 日現在推計人口）
・二大ビジョン　・健康医療先進都市　・文化創造都市
・山形市中心市街地グランドデザインテーマ　　・歩くほど幸せになるまち
・2019 年中核市移行、市保健所を設置して健康政策のシンクタンクとして活用開始

3．健康医療先進都市のビジョンと SUKSK 生活の政策体系

主要事業として健康ポイント事業 SUKSK の普及と推進を図り、生活習慣病の予防、市民の健康寿命の延伸などにより、ビジョンである健康医療先進都市の確立、持続可能な選ばれるまちを目指す。

4.「SUKSK 生活」とは？

①山形市民の健康寿命を損なう三大原因の予防

認知症 運動器疾患 脳血管疾患（脂質異常症・高血圧症・糖尿病など生活習慣病予防）

②SUKSK 生活（バランスのよい生活習慣）

・S 食事　減塩・栄養バランスのとれた食事　健康な歯　歯周病予防
・U 運動　ウォーキングなどの有酸素運動　スクワット運動などの適度な筋トレ
・K 休養　適切な睡眠　余暇を楽しむ　心の健康
・S 社会参加　社会インフラ整備　教育・就労・良好な人間関係　高齢者等の社会参加
・K 禁煙・受動喫煙防止　受動喫煙のない環境　喫煙習慣の見直し

③平均寿命を伸ばすために

日本人の 3 大死因である　①がん　②心臓病　③肺炎の予防が重要

④健康寿命を伸ばすために

・そもそも健康寿命とは要介護 2 未満の状態である。
・要介護 2 になった原因は 3 大原因①認知症②運動器疾患③脳卒中が関係している。

・生活習慣病の予防　　・SUKSK 生活の実践

5． SUKSK 事業の実施

①2019 年に事業を開始して。令和 7 年 12 月末で SUKSK 登録者 2 万人を突破！

②5,000 ポイントを貯めると抽選で総計 5,000 名様に県内温泉旅館宿泊補助券・山形牛・商品券などが当たる。

③SUKSK 生活普及 5 つの取組み

1)社会参加を含めた多様な活動にポイントを付与（二次元コードの活用）

・多種多様な活動にポイントを付与

・歩くだけじゃない、イベントへの参加や外食、日常の SUKSK 生活でも

2)楽しみながら続けられる仕組みづくり

・毎月第 3 土日は 8,000 歩以上でポイント 5 倍！

・毎月第 3 日曜日及びその前日の土曜日ポイントアップ

3)事業所の健康経営への活用推進

・健康は個人の問題でもあるが組織や社会の問題である。企業と連携して、従業員の健康づくりをサポート

4)専門家やヘルスケア企業との連携

・専門家や企業と連携し、社会への発信力を増幅する。

5)健康無関心層への徹底したプロモーション

・どんなに良い取組でも伝わらなければ意味がない。

・健康ポイント事業 SUKSK を「やらない理由」を考察すると、SUKSK の存在を知らない。聞いたことはあるがメリットを知らないという意見が多い。

・広報の充実　　マスメディア・ソーシャルメディア・市報

6． 健康医療先進都市を目指してきた成果

市が提唱する「SUKSK 生活」の推進に加え、市民主体の健康づくり活動等により、平均寿命と健康寿命が男女ともに延びた。また、日常生活に制限のある不健康な期間（平均寿命と健康寿命の差）も縮小した。

・男性　　健康寿命：0.86 年延伸

平成 25 年（2013 年）平均寿命：81.17　健康寿命：79.84　不健康な期間：1.33

令和 4 年（2022 年）　平均寿命：81.95　健康寿命：80.70　不健康な期間：1.25

・女性　　健康寿命：0.61 年延伸

平成 25 年（2013 年）平均寿命：87.44　健康寿命：84.46　不健康な期間：2.98

令和 4 年（2022 年）　平均寿命：87.97　健康寿命：85.07　不健康な期間：2.90

・65 歳以上の高齢者に占める要介護 2 以上認定者の割合が減少

65 歳以上の高齢者数は増加にもかかわらず、要介護 2 以上認定者数は減少

・第 1 号被保険者数（65 歳以上の高齢者）の推移と要介護 2 以上の認定者の割合

平成 30（2018）年度

・第 1 号被保険者数：71,236 人

・要介護 2 以上の認定者の割合：10.1%（7,190 人）

令和 5（2023）年度

・第 1 号被保険者数：73,140 人

・要介護 2 以上の認定者の割合：9.3%（6,790 人）

【山形県天童市】
視察項目　　空き家対策(「わが家」のエンディングノート)について

(目的)
　加西市でも年々、空き家が増えてきているが売買や賃貸契約はあまりすすまず、状態の良い物件でも年数が経って古くなり、より流通が困難となっている。天童市では空き家に将来なることを少しでも防止するために、「我が家」のエンディングノートという家の履歴書として、建築年や改修年・項目などの記録、相続人の家族構成などをまとめるノートを作成配布し、その家への愛着を高め、今後どうするのかを家族で考えるきっかけづくりを図っている。加西市の空き家対策におおいに参考としたい。

(内容)
１．天童市の基本情報
・面積：113.02km2（東西約 18km、南北約 10km）・人口：59,426 人（令和 8 年 5 月）
・世帯数：23,443 世帯　・将棋駒とラ・フランスの生産量日本一のまち

２．空き家の確認件数は
総数は 525 件、地域別には東部 181 件、中心部 209 件、西部 135 件(令和 8 年 3 月末)

３．空き家の把握方法は
　毎年 10 月に水道事業者、課税担当部署、建築担当部署などが連携し実態の把握に努めている。また、地域おこし協力隊による巡回、空き家相談などでも把握し、空き家台帳システムへ登録し、位置、所有者、状況等を管理している。

４．　空き家対策の基本方針
　空き家対策の基本的な考えとして、空き家は所有者の個人財産であり、空き家の活用、処分、管理は、原則として所有者の意向と責任により行われるべきで、市は空き家所有者への支援、適正管理の啓発を行い、空き家や解体後の土地が不動産市場に流通するよう促す役割を担っている。そして、空き家の解消や新たな空き家の発生抑制は民間の商活動にまかせている。
　空き家問題の解決は、「民間でできることは民間で、行政にしかできないことは行政で」という原則で行っている。

５．　空き家対策の取り組み
　①適正管理の啓発
　「わが家のエンディングノート」を作り、空き家所有者への啓発活動として、建物について考える、空き家管理を考えるきっかけにしている。

②所有者への支援

『天童市アキカツカウンター』という空き家所有者が何でも聞けるオンラインの相談窓口を作り、空き家所有者の悩みを聞いて解決に貢献している。また、『空き家補助制度』により財政支援をして、空き家解消の呼び水にしている。

天童市アキカツカウンターは令和 6 年 2 月 5 日に開設し、令和 8 年度は 6 月 30 日現在、84 件の相談を受けている。

③不動産市場への流通

天童市空き家バンクは平成 26 年度に開設され、これまでに 116 物件が登録されている。令和 6 年度に運用方式を改定し、空き家バンクに登録できる物件として、適法な空き家、土地建物所有者全員が登録を承諾した空き家、不動産業者との媒介契約が締結された空き家など優良な空き家を登録することで、短期間で契約に至る物件が増え、所有者の負担が軽減された。

6．成果と課題

①空き家対策の成果

・「わが家のエンディングノート」、「天童市アキカツカウンター」の導入により、空き家所有者の困りごとを可視化することが可能になった。
・空き家解消までの工程がわかりやすくなり、所有者への対応が具体化された。
・空き家台帳システムの導入により、空き家を早期に把握することが可能となった。
・空き家の所有者へ早期に適正管理を啓発することで、空き家の解消が進んでいる。
・官民の役割分担が明確になり、空き家を不動産市場へ流通させやすくなった。

②空き家対策の課題

・所有者不在、所有者不明となった空き家への対応
・所有者の意向がまとまらない、共同名義の空き家への対応
・不動産商品になりづらい空き家への対応

【山形県東根市】

視察項目　　公益文化施設　まなびあテラスについて

(目的)

加西市の図書館機能も年々充実してきていますが、東根市は図書館、美術館、市民活動センター、近くの中高一貫校と連携し、市民が集まるにぎわいの場所の中核として図書館を位置づけ、様々なしかけや取組をされているので、それを研修調査し、加西市の文化向上に向けた施策展開の参考にしたい。

(内容)

１．東根市公益文化施設「まなびあテラス」の概要

・平成 28 年 11 月 3 日に開館して、今年で 10 年目
・開館からの総来館者数　2,470,118 人 （令和 8 年 3 月末）
・施設規模　延床面積　4,401.18 ㎡　（1F 4,262.28 ㎡、2F 138.90 ㎡）
・鉄骨造、一部鉄筋コンクリート造 2 階建て
・公益文化施設駐車場 147 台、公園駐車場 10 台、駐輪場 100 台など

２．整備手法と建設費

・PFI 方式（民間事業者のノウハウを活用して、設計、建設、維持管理、運営を一括して発注する方式）
・事業費（入札時）65 億 5,400 万円（うち施設整備費相当分 34 億 5,200 万円）

３．施設等の機能

①テーマ　　～多少の喧騒を包み込む賑わいのある文化施設～

②図書館

・所蔵能力 20 万冊（開架 10 万冊、閉架 10 万冊）令和 8 年 3 月末で約 19.1 万冊
・ティーンズコーナーの充実
　　中高生が良く読む図書を近くに配置した専用の勉強部屋
・自動貸出機、自動返却機、IC 予約本受け取り棚、電子書籍、読書手帳、24 時間受取 BOX
・併設のカフェと図書館内でつながっていて、コーヒーなど蓋つきの飲み物は図書館内で飲める。
・40 席の学習室と 10 席の PC 学習室

③美術館

市民ギャラリー（約 400 ㎡）、特別展示室（約 200 ㎡）、アトリエ

・市民作品の展示から、一流芸術作品の全国巡回展まで幅広いグレードに対応
・絵画や彫刻などのファインアートから、空間芸術やデジタル作品などの現代アートまで幅広いジャンルに対応
・アトリエを備え、創作活動の場を提供

④市民活動支援センター

情報ラウンジ、プリント工房、講座室

・ホームページや施設のファイル棚で芸術活動団体等の情報発信をサポート
・専任のスタッフの配置による相談体制や市民活動のサポート体制を構築
・講座室、プリント工房、地域映像アーカイブスシステムなどを整備

⑤その他
カフェ、メディア＆アートショップ
⑥都市公園
交流広場、読書広場、芝生広場

4．　民間事業者による運営の概要

まなびあテラスの維持管理・運営はSPCがおこなっていて、市の直営企画等はない。市はSPCと指定管理について年度協定を締結し、それに基づいて指定管理料（R8契約額：1億5,814万円を支払っている。他に図書資料調達に係る業務委託契約（R8契約額：2,000万円)、企画展等実施に係る業務委託契約（R8：契約額：2,000万円）を締結して、SPCは年間の維持管理・運営をおこなっている。

※SPC　（Special Purpose Company）
「特定の事業や資産を切り出して運営・資金調達するために設立される特別目的会社」

5．市民ボランティアとの連携

まなびあテラスの運営に係るボランティアにはサポーターズクラブがあり、今年度、新旧併せて83名（内訳ティーンズ25名　大人58名）が登録されて、図書館の本揃え、美術館館内の壁移動、市民活動支援センターの実施事業のお手伝い等のご協力を頂いている。

6．施設の利用者数の推移と利用される年齢層

平成29年から平成31年は年間約 30 万人の来館者数で推移していたが、感染症流行の影響で 令和2年に大幅に減少し、現在は徐々に来館者数が戻ってきている状況である。

年齢層は中高生が多いですが、大人も子供も幅ひろく利用している。

7．今後の課題や取り組み

・美術館展覧会等企画展示の価格高騰に対し予算内での実施の工夫
・内容についてもより充実した利用者に喜ばれ、来館意欲を高める展示
・図書館利用についても親子で参加できる映画の上映会等新しい事業展開
・図書館、美術館、市民活動支援センターからなる複合施設の特性を活かした
利用者の芸術・文化活動に一層寄与出来る運営

〔所感〕　深田照明

【山形県寒河江市】　農業の担い手育成について(新規就農等支援事業について)

寒河江市の農業生産額はさくらんぼや桃、すももなどの果樹栽培が約７割をしめているが、その果樹栽培の労力は大きく、従事者の高齢化とともに離農家が増えていると聞いて、加西市のぶどう農家の現状とよく似ていると感じた。

水稲栽培はスマート機械の導入などで、ある程度の労力軽減が図られるが、果樹栽培畑への専用機械の導入は難しく、さくらんぼの摘み取りは繊細な人の手でしかできない現実は若い世代の農業離れに拍車をかけるのは当然であると思う。しかし、誰かが地域コミュニティの基礎でもある地域農業は守っていかなければならないのも事実である。

寒河江市では新規就農者を増やすために、国や市の補助メニューを活用して、取り組みを強化されているが、やはり、新規就農者の多くは寒河江市に地縁、血縁のある方が多いと聞いて予想通りと思った。なかなか、全国から新規就農者を募集しても、結局は寒河江市のことを考えてくれる人しか集まらない現実は加西市と共通している。そんな話の中で、「おじいさんの畑を守りたい」と若いお孫さん世代が果樹栽培を引き継ぎたいと希望していることを聞いて、日頃の家族のきずなの大切さを実感し感激した。

また、新規就農者を元 JA 職員、若手農業者団体、地域おこし協力隊などが手厚くサポートする体制が確立できていることが素晴らしいと思った。加西市においても、新規就農者を町や地域があたたかく受入れ、協力団体のサポート体制作りをより整備することが重要であると改めて感じた。

【山形県山形市】　健康ポイント事業 SUKSK(スクスク)について

この事業は現山形市長の市民の健康を守りたいというあつい思いを受けてスタートした事業であると最初に聞いて、市民の健康づくりと健康寿命の延伸は加西市にとっても大きな願いであり、どう施策を展開されているのか、その取組の有効性をしっかり確認したいと強く感じた。

山形市の健康ポイント事業の基本は加西健康アプリと同じように歩く歩数により、ポイントが貯まるシステムであり、その他、イベント参加や外食、日常の健康に気をつける SUKSK 生活でもポイントがたまるようになっている。その登録者は人口 23 万人のうち 2 万 2 千人と登録者が 1 割未満で、加西市の 16 パーセントより低いのは、まだまだ健康をあまり気にしない若い世代が多いのではと感じた。その貯まったポイントは、加西市ではポイント点数 1 点がねっぴーpay マネーポイント 1 点に交換されるが、山形市では 5,000 ポイントが貯まったら、抽選会に参加する権利ができて、山形牛や旅館宿泊券、お菓子商品券などいろいろな景品が当たるようになっている。この抽選は何が当たるかわからない楽しみがあり、加西市の健康アプリ登録者を伸ばす取組としても有用ではないかと思った。

また、ポイントを貯める歩き方として、毎月第 3 土曜日に 8,000 歩以上歩くと、ポイント５倍デーを作って奨励されている。しかし、極端に多く歩く方には逆にスマートフォンが壊れていないですかと問い合わせをすることもあるとのことであった。あくまで適度な運動をすすめるというのが本来の目的であり、ポイント獲得上位を目指すあまり、歩きすぎて体調を崩すことはやはり本末転倒である。このことは加西市でも注意喚起してはどうかと思う。

ともかく、結果として健康寿命の延伸と介護率の減少が認められ、効果が出ているということが立証されている。加西市でも健康アプリ利用者は健康寿命が延びているという統計データの解析や公表をして頂けると、事業に参加されている人の励みになると考える。

【山形県天童市】　空き家対策(「わが家」のエンディングノート)について

空き家対策としての我が家のエンディングノートの取組は、なかなかユニークな発想である。家を擬人化して、私という言葉を使い、その家の歴史を誕生から成長、老朽化に対する改修などの流れを記録していくことは、住んでいる人々にとっても愛着が生まれ、大事に次の人に渡していきたいという気持ちが生まれると感じた。また、ノートに実際に建築された年や改修年月、住んでいた人の先祖や孫などの家系図も記入できるようにすることで、家を建てられた方の思いと、将来、誰が相続していくべきかという基準的なものが理解しやすくなり、変な相続争いが防げると思った。

加西市にも空き家が増えてきているが、相続される方が誰かわからず、空き家を売買、賃貸する手続きがまったくすすまず、ただ時間だけが経過し、家の価値が下がっていく現実があるので、そういう点からも、家に関する記録をまとめておく、このノートはとても価値が高いと思う。

そして、天童市 HP の空き家バンクには登記的な処理が完了し、不動産会社が管理している５件程度のすぐに売買できる家だけを掲載していているということも特筆すべきである。その売れ行きは早く、３か月以内にすべて売買・賃貸できるというのは、このエンディングノートの効果であると聞いて、加西市 HP の空き家バンクでは、常時、30 軒以上掲載されているが、あまり契約がすすんでいないので、このノートの利用や優良物件を絞り込む掲載方法の検討が必要であると思った。

また、地域により新規移住者の受入れが難しくないかと質問したが、確かに一部の地域では受入に消極的な町があるが、逆にある地域では独自で空き家情報を地域 HP で紹介して、積極的に受入を進めているということを聞いて、これは加西市でも同様であるので、地域の皆さんの移住者をあたたかく受入れる意識の醸成も大切であると改めて思った。

【山形県東根市】　公益文化施設　まなびあテラスについて

まなびあテラスは美術館風のモダンな建物で、窓も大きく、メイン通路も広く、とても開放的な空間として、多くの市民が集い楽しむ複合施設となっている。その核となる図書館フロアは広くゆったりとし、静かに本を読んだり学習できる場所であった。本を並べる架台は加西市立図書館より低めで、大人なら端から端まで見渡せる設計はより部屋の広さを感じる構造となっていた。また、幼児や児童が集まる子供エリアの架台をより低くして、子供達の目線で本を探せる工夫がされていた。この架台の低さは子供達から保護者が見えやすくなり、お互いが見えることで安心できるということを考え、特別に配慮した担当者の思いがこもっている。また、一番奥に主に中高生が勉強する学習室が配置され、すぐ手前にはティーンズコーナーという中高生が勉強に使う図書を集めたスペースがあり、調べたいことが掲載されている本をすぐに見つける検索装置も完備されていて、勉強がはかどるよう配慮された設計は素晴らしいと感じた。そして普通の図書館では許可されない飲み物の持ち込みも可能で、特筆すべきは図書館に隣接した喫茶店に入らなくても、図書館側の注文窓口でコーヒーやジュースなどを注文し受取れる窓口があり、図書館内で温かいコーヒーなどを飲みながら、ゆったりと本を読めることはとても優雅で快適性向上に繋がっている。

このまなびあテラスには、図書館の他に美術館、市民活動支援センター、そして都市公園が整備され、市民が集まる拠点として機能している。運営も PFI 方式で民間専門事業者が図書館の本の調達や美術館の企画など管理運用をしていて、とても合理的であると思った。

加西市立図書館も複合施設であるアスティア加西にあるが、その複合施設の集客力はいま下がっているので、喫茶コーナーの併設や学習コーナーの整備など、図書館の来場者を増やしていく取組も行政とともに考えていきたい。

〔所感〕　田井真一

【山形県寒河江市】　農業の担い手育成について(新規就農等支援事業について)

寒河江市の視察では、農業の担い手不足という課題に対し、単に補助金を交付するだけではなく、新規就農者が地域に定着し、安定した農業経営を継続できるよう、農業経営アドバイザー（元ＪＡ職員)、新規農業者支援育成協議会、さがえ農人会などによるサポートなど、行政・関係機関・地域が連携して支援している取組みについて学ぶことができた。

特に、市独自の支援制度である新規就農者定住促進事業により、住居の確保、定住支援、農業機械や施設整備への助成、新規就農者が抱える初期投資や経営上の負担を軽減する施策など、就農後の継続的な相談体制を構築し伴走支援していることは、担い手の定着率向上につながる重要な取組として非常に参考になった。

本市においても、高齢化や後継者不足が進み、地域農業を支える担い手の確保は喫緊の課題となっている。寒河江市のように、就農希望者への支援だけでなく、就農後の経営安定や地域への定着までを見据えた総合的な支援体制を構築することが重要であると考える。本視察で学んだ内容を、本市の農業振興施策や担い手確保施策の検討に生かし、地域の実情に応じた効果的な支援施策の提案につなげていきたい。

【山形県山形市】　健康ポイント事業 SUKSK(スクスク)について

山形市の視察では、市民が楽しみながら健康づくりを継続できるよう取り組んでおられる「健康ポイント事業ＳＵＫＳＫ」は、健康寿命の延伸と医療費の抑制を目指した先進的な取組について学ぶことができた。

特に印象的であったのは、「Ｓ食事・Ｕ運動・Ｋ休養・Ｓ社会参加・Ｋ禁煙」の５つの生活習慣を「ＳＵＫＳＫ」として分かりやすく市民へ浸透させ、健康づくりを義務ではなく楽しみとして取り組めるよう工夫されている点である。また、歩数や健（検）診の受診、健康講座や地域活動への参加など、日常生活の様々な健康行動をポイント化し、抽選による特産品や商品券などのインセンティブを設けることで、市民の継続的な参加につなげておられる。

さらに、高齢者だけではなく、働く世代や事業所も対象とし、スマートフォンアプリや歩数計を活用したデジタル化を推進することで、幅広い世代が参加しやすい制度設計となっている点も優れていると感じた。健康づくりを個人の取組にとどめず、企業や地域を巻き込んだ「健康なまちづくり」として展開していることが、この事業の大きな特徴である。

本視察を通じて、健康づくりは行政だけで進めるものではなく、市民・企業・地域が一体となって取り組むことが成果につながることを改めて認識した。山形市の事例を参考に、本市においても市民がより健康で生き生きと暮らせるまちづくりの実現に向けて、今後の政策提言や議会活動に生かしていきたい。

【山形県天童市】　空き家対策(「わが家」のエンディングノート)について

天童市の視察では、空き家対策を「建物の管理」という視点だけでなく、「空き家を発生させないための事前対策」として捉えている取組について学ぶことができた。

特に印象的であったのは、「わが家のエンディングノート」を活用し、所有者本人が元気なうちから住まいや財産、相続、管理方法などについて家族と話し合う機会を設けることで、将来的な空き家の発生を未然に防ぐという考え方である。空き家問題は、所有者が亡くなった後や施設入所後に家族間で十分な話し合いが行われていなかったことが原因となるケースも多く、早い段階から意思を共有することの重要性を改めて認識した。

行政がエンディングノートを配布するだけではなく、地域包括支援センターや関係団体と連携しながら普及啓発に取り組んでいる点も大変参考になった。市民が終活を前向きに考えるきっかけをつくることが、結果として空き家対策や地域の住環境の維持にもつながるという発想は、今後の自治体施策において重要な視点であると感じた。

また、空き家活用株式会社との委託により「天童市アキカツカウンター」を設置し、市民や事業者からの空き家に関する相談を無料で行っている。

本市においても、人口減少や高齢化の進展に伴い、空き家の増加が課題となっている。空き家の利活用や除却支援だけでなく、空き家を発生させない予防的な施策として、エンディングノートの活用や相続・住まいに関する相談体制の充実、関係機関との連携強化を図ることが必要であると考える。本視察で学んだ内容を、今後の議会活動や政策提言に生かし、市民が安心して将来設計を行える環境づくりと、空き家の発生抑制に向けた実効性のある施策の推進に努めていきたい。

【山形県東根市】　公益文化施設　まなびあテラスについて

東根市の公益文化施設「まなびあテラス」を視察して、図書館・美術館・市民活動支援センターを一体的に整備・運営することで、市民の学びと交流、文化芸術活動を支える拠点となっていると感じた。特に印象的であったのは、図書館を単なる「本を借りる場所」とするのではなく、人が自然に集い、交流し、新たな学びや活動が生まれる空間として位置づけている点である。館内にはカフェも併設され、飲み物の持ちこみも可能で、開放感があり、子どもから高齢者まで誰もが利用しやすい環境づくりが徹底されており、市民活動や芸術文化との連携によって施設全体に活気が生まれていた。

また、ＰＦＩ方式を導入し、民間のノウハウを活用した施設整備・運営を行っていることも大きな特徴であり、行政だけでは実現が難しいサービス水準や効率的な維持管理につながっている。施設整備だけでなく、運営面においても継続的な工夫が行われ、多彩な企画展やワークショップなどを通じて、市民が何度も訪れたくなる魅力ある施設となっている点は大いに参考となった。

本市においても、公益施設は単なる行政サービスを提供する場ではなく、市民が集い、交流し、新たな価値を創造する拠点へと転換していくことが求められている。そのためには、施設の複合化や多機能化を進めるとともに、市民や民間事業者との協働による運営を積極的に取り入れることが重要であると感じた。

本視察で学んだ内容を、今後の議会活動に生かし、本市における公共施設の在り方や図書館機能の充実、市民活動の活性化について提言を行っていきたい。

令和新風加西、加西市民クラブ　行政視察　行程表

７月２７日（月）

06：00 発　　加西市役所（自家用車）

08：00 発　　伊丹空港（JAL2233）

09：15 着　　山形空港

【レンタカーで移動】［昼食］

13：30～15：00　　寒河江市視察（TEL：0237-85-1899）

・農業の担い手育成について（新規就農等支援事業について）

【レンタカーで移動】

≪宿泊≫山形駅西口ワシントンホテル

山形市城南町 1-1-1、TEL：023-647-1111

７月２８日（火）

【徒歩で移動】

10：00～11：30　　山形市視察［山形市保健所］（TEL：023-642-8404）

・健康ポイント事業ＳＵＫＳＫ（スクスク）について

【レンタカーで移動】［昼食］

13：30～15：00　　天童市視察（TEL：023-654-1111）

・空き家対策（「わが家」のエンディングノート）について

【レンタカーで移動】

≪宿泊≫ホテルルートイン天童

天童市鎌田 1-13-22、TEL：023-656-9511

７月２９日（水）

【レンタカーで移動】

９：30～11：00　　東根市視察（TEL：0237-43-1175）

・公益文化施設まなびあテラスについて

※現地視察含む

【レンタカーで移動】［昼食］

14：50 発　　山形空港（JAL2236）

16：10 着　　伊丹空港

16：40 発　　伊丹空港駐車場（自家用車）

17：40 着　　加西市役所

視察写真

【山形県寒河江市】







【山形県山形市】





【山形県天童市】







【山形県東根市】



